

仙台市文化財調査報告書第132集

年報 10

昭和 63 年度

平成元年 3 月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第132集

年報 10

昭和63年度

平成元年3月

仙台市教育委員会

序 文

生涯学習ということが、一段と注目されてきている今日、文化財もその一翼をになっております。各種の講座や説明会に参加している市民の皆様の態度に接する時、私共は、より市民のニーズに応えるべく努力していくかなければ感じているところです。そこで、私共は、文化財の調査・保護・管理・普及啓蒙の面から各種の事業を実施してまいりました。その事業について、ここで報告してまいります。

今年度、春先から注目を浴びました富沢遺跡30次調査において、23,000年前の最終氷河期の人間の生活の様子や自然環境が生きしい状態で発見されました。現地説明会には、数千人の人々が来跡され貴重な体験をされました。あの時の皆様の興奮した顔々、全国各地の研究者の声を生かすためにも、万全の保存処理をほどこし、後日、公開していく所存であります。そのためには、市民の皆様のお知恵をも提供していただき、聞かれた文化財としていきたいと考えております。

市民の皆様のさらなるご支援並びにご助言をお願い申し上げ刊行のご挨拶といたします。

平成元年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井 黎

目 次

序言	
目次	
例言	
1. 管理関係事業報告	1
2. 調査関係事業報告	3
3. 普及啓蒙関係事業報告	18
職員録	
仙台市文化財調査報告書刊行目録	

例 言

1. 本書は仙台市教育委員会社会教育部文化財課が、昭和63年度に実施した保護管理、調査、普及啓蒙に関する各事業に関する年度報告書である。
2. 本書の地形図は、建設省国土地理院発行 5万分の1「仙台」を使用したものである。
3. 執筆担当者は、文末に明示した。本書の編集は全員の協力をもとに、佐藤隆が担当した。

1. 管理関係事業報告

(1) 一般文化財

1) 文化財保護委員会の開催

定例会（隔月偶数月）を 6 回開催した。

県指定無形文化財「平曲」の篠山甲午氏が、平成元年 1 月死亡したため指定文化財が 1 件減り、142 件となった。

第 3 回（8 月）の委員会において「仙台城跡の保存並びに整備活用について」仙台市教育委員会への答申を行った。

2) 文化財パンフレットの作成

旧宮城町、旧秋保町地区の文化財を紹介するパンフレットを発行した。

3) 説明板・標柱の設置

本年度は説明板を 6 基設置した。（設置対象文化財：大牛寺惣門、六郷堀と七郷堀、諏訪神社と御殿館跡、宇那福神社、旧馬場村とその周辺、旧長袋村とその周辺）

4) 辻標の設置

平成元年 3 月辻標委員会を開催した。本年度は 5 基設置した。（八幡町／作並街道、二十人町／榎ヶ岡、比丘尼坂／燕沢、舟丁／塙場、今市／塩竈街道）

5) 指定文化財等の維持管理

遠見塚古墳、陸奥国分寺跡、山田上ノ台遺跡、三沢初子の墓、西館跡、諏訪神社、かんざし桜、桶山城跡、小滝沢橋、豊後館跡、石割桜、祈念岩、秋保資料館、泉資料館の清掃、除草を委託で実施した。

6) 文化財の防災点検

指定文化財の防災設備の点検を各消防署の指導で実施した。また、1 月 26 日の「文化財防火デー」では、指定文化財の大崎八幡神社外 7ヶ所で防火訓練を行った。

7) 文化財分布調査

秋保地区の埋蔵文化財に関する分布調査を実施した。

8) 天然記念物の保護管理

① カモシカの保護については、奥新川地区外 2ヶ所に出向いた。その結果 1 件は負傷により動物園に保護し、他の 2 件は死亡していたので東北大学理学部の検死を受けた後埋葬した。

② 植物関係では、苦竹のイチョウ、朝鮮ウメの樹勢調査、ミズバショウの水系調査を実施した。

9) 仙台城跡総合調査

仙台城跡の保存・整備・活動については、本年8月文化財保護委員会の答申に基づき、国史跡指定に向けて事業を推進する予定である。

本年度は基本調査として約100haの遺構測量調査を実施した。

10) 環境整備

市指定史跡松森焰硝蔵跡の植栽等による環境整備を行った。

(2) 补助事業

1) 国庫補助事業

① 史跡陸奥国分寺跡の土地買上事業

史跡の公有化事業として、本年度は1件、土地438.36m²（うち共有通路23.34m²）を取得した。これまでの買収総面積は、22,565.30m²となり全面の24.6%を占めた。

② 史跡陸奥国分寺跡の保存管理計画の見直し

史跡陸奥国分寺跡、同尼寺跡保存管理計画策定委員会（委員5名）を4回開催して、新保存管理計画書を作成した。

③ 郡山遺跡他発掘調査事業

郡山遺跡、郡山遺跡範囲確認調査第2次5ヶ年計の3年次である。今年度はⅠ期官衙の中軸部とされている箇所を調査し、2～3期にわたる大型の掘立柱建物跡を検出した。仙台平野の遺跡群、個人住宅の建築に伴う発掘調査及び重要遺跡の範囲確認調査である。今年度は陸奥国分尼寺跡の南辺付近を調査したが、区画するような遺構は検出されなかった。他に郡山遺跡7件を調査した。

2) 県費補助事業

① 指定有形文化財（建造物）保存事業

大崎八幡神社、東照宮、陸奥国分寺仁王門の防災設備の保守点検と一部修理に対し補助をした。また、陸奥国分寺仁王門の屋根葺替工事に対し補助金を交付した。

② 指定無形文化財技術保持事業

精好仙台平と平曲の技術保存のための補助を行った。また、民俗芸能の保存伝承活動を行っている団体に対し事業補助を行った。（補助対象団体：愛子の田植踊保存会外10団体）

3) 市費補助事業

① 指定有形文化財（建造物）保存事業

臨濟院弁財天堂の復元工事を行った同奉賛会に対し補助金を交付した。

② 指定無形文化財技術保持事業

民俗芸能の保存伝承活動を行っている団体に対し補助金を交付した。(補助金対象団体: 滝原の顛拂外4団体)



臨濟院弁天堂（平元. 3. 31）

2. 調査関係事業報告

昭和63年度発掘調査事業は、国庫補助事業として〔1〕郡山遺跡、〔2〕仙台平野の遺跡群の発掘調査がある。自主事業として〔3〕中在家南遺跡他4件の発掘調査がある。受託事業として、〔8〕茂ヶ崎横穴墓群他25件の発掘調査がある。

発掘調査の概要について以下にまとめてある。詳細については、おのおのの遺跡の仙台市文化財調査報告書として刊行しているので、報告書を参照していただきたい。

昭和63年度発掘調査の概要

No.	遺跡名	時代	種類	測量面積	調査期間	担当職員	報告書	事業別
1	郡山遺跡	古墳～奈良	古墳跡	2,295m ²	5.15～11.22	木村、渡辺耕	124集	国庫補助
2	仙台平野の遺跡群	〃	官衙跡・寺院跡	660m ²	5.9～11.14	結城、主兵	125集	〃
3	中在家南遺跡他	古墳～中世	河川跡他	2,000m ²	4.11～3.24	工藤鶴、貴井		自主事業
4	北前遺跡	戦文	集落跡	200m ²	4.12～7.13	小川、渡部鶴		〃
5	王ノ塙遺跡	高文～中世	集落跡・古墳	5,500m ²	7.20～12.10	〃		〃
6	赤生津遺跡	〃	水田跡他	1,600m ²	7.1～1.10	熊谷、佐藤敏		〃
7	富沢遺跡	印石器～近世	〃	5,000m ²	4.15～12.23	太田、吉野、佐藤敏		〃
8	茂ヶ崎横穴墓群	古墳～奈良	横穴墓	300m ²	4.11～4.18 5.9～5.16	木村、渡辺耕他	130集	受託事業
9	茂ノ里遺跡	古墳～中世	集落跡	185m ²	4.14～5.19	結城、渡辺耕	123集	〃
10	南小泉遺跡	古墳	〃	985m ²	4.11～5.19	渡部鶴、宮崎	131集	〃
11	〃	古墳～中世	集落跡他	900m ²	4.11～8.23	佐藤敏、工藤鶴		〃
12	〃	〃	〃	750m ²	7.18～12.1	〃		〃
13	〃	〃	〃	1,247m ²	10.11～1.10	〃		〃
14	茂庭東築けんとう城跡	属文～近世	〃	17,000m ²	4.11～12.2	木森、高倉、佐藤敏		〃
15	宮沢・東崎浦・山口遺跡	弥生～近世	水田跡	1,750m ²	4.11～11.30	佐藤敏、平岡、中富、太田、宮崎	128集	〃
16	宮沢遺跡	〃	〃	2,200m ²	5.9～12.23	平岡、佐藤敏、宮崎		〃

[1] 郡山遺跡（国庫補助事業）

- 調査地 仙台市郡山三丁目127他
- 調査期間 昭和63年5月16日～11月22日
- 調査面積 2,295m²
- 調査員 結城慎一、木村浩二、渡辺雄二
- 調査概要

今年度はⅠ期官衙の遺構確認を主眼に置き、Ⅱ期官衙域内中央地区の調査の他、住宅建築等による発掘届が提出されていた地区での小規模な事前調査を7件実施した。第2次5ヶ年計画の4年次調査として実施した第77次調査では、Ⅰ期官衙の中枢を形成していたものと考えられる大形の建物が立ち並んでいた他、別時期で板塀や長棟建物で区画された一画や、倉庫建物群が重複して確認され、Ⅰ期官衙の中でも3時期にわたる小期変遷が認められた。また、同地区でⅡ期官衙の建物や痕跡も重複して発見された。

第75次 Ⅱ期官衙外東南地区	20m ²	溝跡・土坑等を発見した。
第76次 推定方二町庵寺跡西地区	15m ²	溝跡・ピットを発見した。
第77次 Ⅱ期官衙中央地区	2,080m ²	Ⅰ期官衙の建物跡・構跡等を発見した。
第78次 Ⅱ期官衙中央地区	5m ²	土取り搅乱のため、遺構・遺物は発見されず。
第79次 Ⅱ期官衙外郭北辺地区	10m ²	Ⅱ期官衙外郭北辺の大溝を発見した。
第80次 Ⅱ期官衙外郭東辺地区	15m ²	Ⅱ期官衙外郭西辺の大溝を発見した。
第81次 推定方二町庵寺跡西地区	100m ²	遺構・遺物は発見されず。
第82次 Ⅱ期官衙北西地区	50m ²	土器の散布は認められたが、遺構は発見されず。



第77次調査区全景(北より)



第77次調査区 S B 1208建物跡(南より)

[2] 陸奥国分尼寺跡

(仙台平野の遺跡群の調査)

1. 調査地 仙台市白萩町309
2. 調査期間 昭和63年5月9日～6月30日
3. 調査面積 約446m²
4. 調査員 主浜光朗
5. 調査の概要

陸奥国分尼寺跡は、東北線仙台駅の南東約2.5kmの位置、仙台市白萩町、宮千代一丁目に所在する。今回の調査は、現在の曹洞宗国分尼寺地内の東部における遺構確認調査であり、調査区は陸奥国分尼寺跡の推定南辺の20～30m東、推定南辺を跨ぐ位置に設定した。

検出された遺構は、土坑2基（SK-1.2）、性格不明遺構（SX-1～5）、小柱穴・ビット69個である。このうち、古代まで遡ると考えられる遺構は、性格不明遺構2基（SX-1、2）のみであり、他の遺構は中世から近世にかけてのものであると考えられる。

出土した遺物は、瓦、土師器、須恵器、中世陶器、近世以降の陶磁器、鉄製品、鉄滓、石製品等がある。その中でも瓦類が大半を占めている。瓦の種類は、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦道具瓦がある。軒丸瓦には、重弁蓮華文、細弁蓮華文、齒車文などがあり、軒平瓦には、重弧文、偏行唐草文、均整唐草文、三重波文などがある。これらの軒瓦は、『陸奥国分寺』（陸奥国分寺跡発掘調査委員会編 1961年）の分類基準によると、重弁蓮華文軒丸瓦は第1類、第3類、細弁蓮華文軒丸瓦は第1類、第2類、重弧文軒平瓦は第1類、第2類、偏行唐草文軒平瓦は第2類、均整唐草文は第2類である。その他に道具瓦（熨斗瓦、隅平瓦）、文字瓦がある。

今回の調査では、当初想定されていた陸奥国分尼寺跡の南辺を区画する遺構は検出されず、寺域範囲及び伽藍配置について、明らかにするための調査を計画的に進める必要がある。



土坑検出状況



瓦出土状況

[3] 中在家南遺跡他

(仙台市荒井地区画整理関係遺跡調査)

1. 調査地 仙台市若林区荒井
2. 調査期間 昭和63年4月11日～
平成元年3月24日
3. 調査面積 2,000m² (調査対象面積 148ha)
4. 調査員 工藤哲司、荒井 格、長島栄一
5. 調査の概要



荒井地区は仙台市の東部、宮城野海岸平野の中央に位置する。標高は5～3mで、発達の悪い自然堤防と旧河道が複雑に微地形を形成し、さらにそれを挟んで後背湿地が広く分布する。

当該地区の土地区画整理事業の着工に伴って、本年度より調査を実施した。調査は、先ず施行地区内の遺跡分布調査(表面調査)を4月12日から4月26日まで実施し、この資料をもとに5月12日からは全域にわたり、街路部分の試掘調査を実施した。試掘調査は春から夏にかけては畠地・更地について実施し、秋から冬季にかけては水田部を試掘した。試掘は2×6mのトレンチを基準とし、80地点の調査をした。分布調査と試掘調査の結果、新たに中在家南遺跡・高屋敷遺跡・荒井畠中遺跡・大場伝遺跡の各遺跡を発見し、荒井館跡についてもさらに調査を実施すべきであることが確認された。

今年度の本調査は、中在家南遺跡にかかる都市計画道路の1,040m²について実施した。調査区の北半(Ⅰ区)は自然堤防に位置し、掘立柱建物跡2棟、土坑16基、溝13条が検出されたが、2基の土坑に古墳時代の可能性があるだけで、時代のわかる他の土坑や溝は近世以降のものと考えられる。中在家南遺跡の南半(Ⅱ区)は深さ約2.5m、推定幅約25mの旧河道にかかっており、第3層の中世頃から、第15層とした最下層の弥生時代の堆積土層にいたるまで、古墳時代の膝柄鉢や弥生時代の臼・杵など、各時代の木製品が多量に出土した。



試掘調査風景(中在家南遺跡)



中在家南遺跡Ⅰ・Ⅱ区全景

[4] 北前遺跡・3次調査

1. 調査地 山田北前町7-2他
2. 調査期間 昭和63年4月12日～7月13日
3. 調査面積 約2,000m²
4. 調査員 小川淳一、渡部 紀
5. 調査概要

遺跡は名取川の形成した段丘上に立地する。太白区消防署建設とともに昭和62・63年の2か年にまたがり調査を行った。昭和62年度に検出された遺構は、平安時代の焼土痕1、縄文時代の住居跡3、土坑11であり、土師器、須恵器、縄文土器、石器が出土した。

縄文時代の住居跡はいずれも複式炉及びその痕跡をもつものであり、出土遺物より大木9・10式の時期のものと考えられる。土坑のうち1基はフラスコ状の形をしており、炭化したトチの実が出土している。また、別の土坑からは多量の大木9式土器が出土した。土坑の所属時期は明確ではないが、おおむね縄文前期末のものと中期末のものと時期不明のものに分けられよう。出土した縄文土器には、胎土に纖維を含むもの、前期末、中期末のものがある。

今年度は縄文時代の遺構面のさらに下層の精査を行なったが、旧石器は出土しなかった。しかし、調査区西側において活断層の痕跡と有機遺物を含む黒色粘土層を確認した。粘土層は段丘疊層の上50～60cmに厚さ10～50cmで広がっていた。層中には樹木、種子類、昆虫遺体が含まれており、関連科学による分析・同定を依頼した。樹木の樹種はハンノキ属・ニレ属・トネリコ属がある。種子類にはミズカシワ・エビヅル・スマモ・キハダの4種が認められた。花粉分析結果と総合すると、現在と同じかやや寒い気候を示している。年代に関しては現在測定依頼中である。



2号住居跡



有機遺物を含む粘土層の調査風景

[5] 王ノ壇遺跡

(都市計画道路「川内柳生線」関連遺跡)

- 調査地 仙台市大野田字王ノ壇7他
- 調査期間 昭和63年7月20日～12月10日
- 調査面積 約5,500m²
- 調査員 小川淳一、渡部 紀
- 調査概要



昭和62年、「川内・柳生線」の建設工事に先立って、路線敷内の埋蔵文化財の確認のための試掘調査を実施した結果、大野田字王ノ壇及び皿屋敷地内に於いて遺構が確認された。これを行うけて、本年度は王ノ壇地区を対象とした本調査に入った。王ノ壇地区は名取川と旧荒川に挟まれた標高10m内外の自然堤防上にあり、数条の旧河道が東西に走っている。南北に長い調査対象地区を便宜上、南からI～N区に分けて遺構の検出作業を行い、全面に遺構の存在を確認した。その内、I区（約2,150m²）を本年度の精査対象地区として調査を進めた。I区の地表面から砂礫層までの深さは約2mで、基本層位は10層認められた。調査した遺構は、3層上面の中世以降の火葬墓3基・中世の大溝4条・小溝状遺構群、5層上面の古代の小溝状遺構群・掘立柱建物跡群などである。小溝状遺構群は畝状遺構などとも呼ばれ、畠跡の可能性のあることが指摘されているものであるが、特に、5層検出のものは、溝幅約40～60cm、深さ約20～60cm、溝間幅約140～160m、長さ30m以上に及び、従来より検出されているものより大規模である。また、検出のみの遺構として、王ノ壇古墳東半部周溝（円筒埴輪あり）と集石遺構（中世墓？）があるが、これらについては、平成元年度に、6層以下の縄文時代後期の調査に先行して精査する予定である。尚、平成元年度に継続調査する遺構としては、II～N区の小溝状遺構群、掘立柱建物跡群、土坑群、堅穴住居跡、円墳周溝（大野田5号墳）などがある。



小溝状遺構群完掘状況



焼骨の出土した土坑

[6] 赤生津遺跡

(緑化フェア関連遺跡)

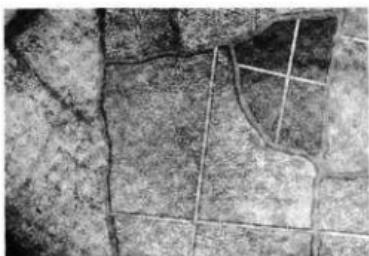
- 調査地 泉区七北田字赤生津
- 調査期間 7月1日～平成元年1月10日
- 調査面積 16,000m²
- 調査員 熊谷幹男、佐藤好一

5. 調査概要

赤生津遺跡は、仙台市の北部泉区七北田字赤生津にあり、七北田川によって形成された、最低位段丘（仙台下町段丘）上に立地している。「グリーンフェアせんだい」の敷地造成にかかるため、本遺跡の発掘調査を行った。調査は遺跡西端部の、縄文時代晚期の遺物包含層地区と、遺跡の中心をなす平安時代の水田地区とで行った。

（遺物包含層地区） 遺物包含層は3層と4層の2つに大別することができ、それぞれ30～40cmの厚さであった。3層からは、縄文時代晚期の遺物（土器、石器、土偶等の土製品）が出土した。いざれも大洞A式期のものと考えられる。同期の遺構として6基の焼土遺構と、6基の土壇を検出した。4層からは前期大木7式と前期初頭の土器も出土している。

（水田地区） 現耕作土下に、中世の遺物を包含する層があり、この層下から灰白色火山灰層におおわれた、約4,500m²におよぶ平安時代の水田跡を検出した。火山灰層は厚いところで約30cmあり、2つの層に大別される。下層の厚さは平均8cmで、火山灰降下時のプライマリーな堆積層と考えられ、上層は火山灰降下後、周辺から流入して堆積したものと考えられる。畦畔の南北方向はほぼ磁北と一致するが、東西の畦畔にはあまり規則性が認められず、面積も一定していない。水田地区は北から南にゆるやかに傾斜しているので、東西の畦畔の不規則性は微地形との関係と考えられる。



水田地区全景



火山灰除去後の水田耕作土上面

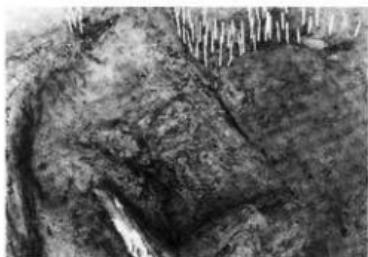
[7] 富沢遺跡・30次調査

1. 調査地 太白区長町南4丁目3番
2. 調査期間 4月15日～12月23日
3. 調査面積 約5,000m²
4. 調査員 太田昭夫、斎野裕彦、佐藤好一
5. 調査の概要

前年度からの継続調査である。V区の水田跡の調査と、昨年度末に新たに発見された旧石器時代の調査が主な調査となった。特に、富沢遺跡では初めての発見となった旧石器時代の生活面は、樹木群など、当時の自然環境を具体的に示すさまざまな資料を伴っており、世界的にも極めて重要な発見ということで大いに注目された。

V区では平安時代の水田跡の調査から始まり、古墳時代の水田跡とともに水田域が調査区全域に広がることが判明した。また、新たに弥生時代の天王山式期の水田の存在も明らかとなつた。

旧石器時代の調査はI～N区の約1,100m²を実施し、生活跡としては石器群が3地点から、炭化物片集中箇所がI地点から発見された。中でも100点を越す石器群と炭化物片が共に検出されたN区では、それらが有機的な関連を持つことが確認されており、焚き火の周辺で石器製作が行われていた状況がうかがわれる。調査区のほぼ全域からは130本の樹根が確認され、それらの周辺からは2,000点を越える種果の他、葉、種子などが多数検出された。また昆虫遺体も多数検出された。さらに動物の存在を示すものとしてはフンがあり、20箇所から平均40点程のフンがまとまって出土している。このような重要な発見により、仙台市は今回の調査箇所を保存することを決め、将来は遺跡公園として活用していくことにしている。



旧石器時代の調査：炭化物片集中箇所



旧石器時代の調査：樹根の出土状況

[8] 茂ヶ崎横穴墓群

1. 調査地 仙台市太白区二ツ沢6
2. 調査期間 第1次 4月11日～4月18日
第2次 5月9日～5月16日
3. 調査員 緑原信彦、木村浩二、吉岡恭平
工藤哲司、荒井 格
工藤信一郎、平間亮輔
渡辺雄二、佐藤 淳、渡部 紀

4. 調査の概要

東北工業大学のグランド造成工事が行われている太白区二ツ沢6の大年寺山南東斜面で、崖面に横穴が発見された。現地調査の結果、古代の横穴墓であることが確認され、最初に確認された11基の調査を1次調査、その後新たに発見された14基の調査を2次調査として、東北工業大学と施工担当の株式会社間組との協議により、緊急発掘調査を実施することとなった。

発見した横穴墓は総数25基で、これらの横穴墓は、大年寺山に南東から北西に入り込んだ小谷の、南北崖面（大年寺層）に南西方向に開口しており、標高53～70mの間に、幅80mにわたって、谷の傾斜に沿うように不規則に分布している。

玄室の規模は $1.5 \times 1.5\text{m} \sim 3.5 \times 3\text{m}$ 、形態はドーム型のものが多く、玄室床面全面に拳大の石を敷いたものや、一方に偏って小石を敷いたもの、又奥に棺座をもつものもみられた。しかし、発見以後に開口していたとみられるものや、造成工事により壊されたものも多く、玄門から羨道については不明なものが多い。

出土遺物は土師器・須恵器等の土器類、玉類、鉄鏃・飾り弓金具・直刀等の鉄製品、金銅製耳環、人骨等である。



横穴墓群遠景



25号墓玉類出土状況

[9] 鴻ノ巣遺跡

1. 調査地 仙台市岩切字鴻ノ巣南
2. 調査期間 昭和63年4月14日～5月19日
3. 調査面積 約185m²
4. 調査員 結城慎一、渡辺雄二

5. 調査の概要

当遺跡は七北田川右岸の自然堤防上にあり、標高は約10mである。この遺跡の東南端に当る場所が宅地造成されることになったので、新設道路となる部分3ヶ所の調査を行った。

1区 遺物を出土する遺構はロクロ土師器、非ロクロ土師器を出土し、10世紀前半から11世紀の年代が考えられる。II層からはSD2・3・4・5溝跡、河川跡が発見され、III層からはSD5～9溝跡、SKI土坑、SXI性格不明遺構などが発見された。

2区 中世陶器がII-1層～II-4層で検出されたのでピットは中世に位置付けられる。河川跡も上層に若干中世陶器片を出土する。II層以下の層及びSD1溝跡、焼土遺構については南小泉式から表杉ノ入式の土師器が混在し、10世紀前半～11世紀にかけてのものと考えられる。

3区 II層は中世・平安時代である。新しい方からSK8・9土坑、SK10・11土坑と発見され、III層上面からは平安時代で最古の遺構と見られるSK1・2・3・7土坑と奈良時代後期に属すると思われるSA1柱到状遺構が発見された。III-3層以下はSK13土坑、SII1～3堅穴遺構が発見され、5世紀前半の南小泉式期の遺構と考えられる。

鴻ノ巣遺跡東南端のこの付近は七北田川を挟んだ新田遺跡との関連を推察させる。新田遺跡も中世から古墳時代の遺跡であり、トータルして考える必要があろう。



3区・発掘状況



3区・調査風景

[10~13] 南小泉遺跡・15~18次調査

南小泉遺跡における調査は、宅地造成に係わるもので、第15~18次の4地点の調査を行った。これら4地点は、遺跡の西部で遠見塚古墳に近接したところで、自然堤防上に立地している。今年度の調査は、特に16次の中世城館の存在及び15~18次の古墳時代の住居跡33軒が注目される。



〈15次〉 1. 調査地：若林区遠見塚二丁目

2. 期間：4月11日～5月19日 3. 面積：約985m²

4. 調査員：渡部弘美、宮崎 明

5. 調査概要：現況は標高10m前後の水田及び畠地である。先年、土取り場として使用していた経緯があり遺構の状況は全般に不良で、調査区東側のみに遺構がみられ西側は皆無であった。検出遺構には、竪穴式住居3軒・土坑1基・溝跡4条・性格不明遺構1基・ビット多数である。住居跡は2軒に重複がみられ、他の1軒も極めて近接している。まとまりをもつ土器群が2軒の住居跡から出土しており、南小泉式期後半期の好資料と考えられる。また、琥珀や水晶が出土地する住居跡があり工房の性格をもつものかと考えられる。土坑は円形を呈する浅いもので遺物から古墳時代のものと考えられる。溝跡は直線的及び蛇行するものがあり、前者は堀跡の性格をもつものと考えられるが時期については不明である。

〈16次〉 1. 調査地：若林区遠見塚一丁目18番外2筆 2. 期間：4月11日～8月23日

3. 面積：約900m² 4. 調査員：佐藤 洋、工藤信一郎

5. 調査概要：古墳時代中期の住居跡10軒・竪穴遺構1軒のはか土坑・溝を検出した。住居跡は竈か炉を伴なうものに分かれ、桁材・梁材が残る焼失住居がある。土坑より鉄滓が出土した。中世は、鎌倉時代の屋敷跡（南辺部）と南北朝～室町時代の城館跡（北辺部）の一部を検出し、大きく二時期の変遷が確認された。特に城館期の区画施設の構造変遷が理解できた点が注目さ



15次・S I - 1 全景



16次全景

れる。すなわち、堀と塀（柵）・溝で区画される階段から堀を拡張し（幅約15m・深度約2m）、土塁を築く階段へ変遷する。ところで、規模は屋敷跡で半町程、城館跡で約一町程と推定される。遺物は、渥美・常滑・瀬戸・在地産・中国陶磁器（青磁・白磁等）があり、また土師質土器（かわらけ）が比較的多く出土している。本遺跡を含む「小泉」には、中世後期に国人領主として成長した国分氏が居住したと記録にみえ、これとの関連が注目される。

〈17次〉 1. 調査地：若林区遠見塚一丁目253-1外6筆 2. 期間：7月18日～12月1日

3. 面積：約750m² 4. 調査員：佐藤 洋、工藤信一郎

5. 調査概要：古墳時代中・後期の住居跡17軒、溝1条のほか土坑等を検出した。住居跡は遺存度の悪いものや完掘できないものも多いが、土器は比較的多く、注目される。遠見塚古墳の西側では後述する18次等合わせて、後期の集落が展開する。中世は大きく三時期の変遷が確認できた。今後検討を要するが、建物跡・井戸・土坑群で構成される段階、次に半町程度の区画溝を伴なう屋敷跡と予想される段階、最後に溝跡（用水堀か）に隣接して建物跡等で構成される段階である。遺物は渥美・常滑・瀬戸・在地産・中国陶磁（青磁・青花）・土師質土器・瓦質土器等が出土している。土師質土器は皿であり、手捏ねとロクロ使用の二種類がある。これら中世遺構は、鎌倉時代から城下町（若林城）が形成される江戸時代初期を下限とし、その中で変遷したものと考えられる。また、第16・18次調査等の中世遺構とも関連してくるであろう。

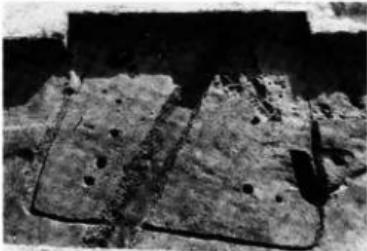
〈18次〉 1. 調査地：若林区遠見塚一丁目237-4外 2. 期間：10月11日～1月10日

3. 面積：1,247m² 4. 調査員：佐藤 洋、工藤信一郎

5. 調査概要：確認された遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡3軒・竪穴遺構1基・溝25条、平安時代の竪穴住居跡1軒・畝溝状遺構、中世の掘立柱建物跡9棟以上がある。また、旧河川が確認され、埋土中から弥生土器1個体分のほか古墳時代の遺物が出土している。古墳時代の住居のうち1軒は焼失住居で、垂木などの建築部材が炭化状態で検出された。また平安の住居からは貼り床が3面検出され、床直から市内では3例目となる鉄製の鋤先の完形品が出土している。溝は25条確認されたが、いずれも巾1m以下の小規模なもので、東西方向に走るもののがほとんどである。



17次全景



18次・S I - I 全景

[14] 茂庭東館けんとう城跡

- 調査地 仙台市茂庭字生出前44-1
- 調査期間 昭和63年4月11日～12月2日
(試掘調査 昭和62年10月23日～1月16日)
- 調査面積 約17,000m²
- 調査員 金森安孝、高倉祐一、佐藤 淳



5. 調査の概要

茂庭東館けんとう城跡の調査は、仙台市水道局茂庭浄水場の天日乾燥床新設工事に先立って1987年度の試掘調査、本年度の本調査と2年度にわたって実施された。

調査地は、名取川の北岸、番山丘陵の南東部に位置し、第三紀中新世旗立層の分布地域で、丘陵頂部付近は段丘堆積物により覆われている。

歴史的には、茂庭低地と呼称される名取川左岸の段丘面の周辺部に遺跡の多くが立地し、茂庭団地内の各遺跡でも縄文時代から平安時代にかけての遺物・遺構が確認されている。中世には、茂庭低地周辺部の丘陵上に山城が集中し、高館丘陵東部の城館跡と共に際立っている。

発掘調査の結果、土杭53基、炭焼窯2基、堅穴遺構1基、道状遺構等を発見した。

土杭は、Tピット17基、縄文後期の埋設土器1基、焼石を伴う土杭2基、底面や壁の一部が焼土化した土杭21基、馬の墓杭1基などである。炭焼窯は、天井部の陥没した2基を検出し、形態、出土遺物から、昭和6年に発案された大竹式木炭窯とみられる。

出土遺物は、総数で150点ほどで、縄文土器では早期～後期にかけての深鉢や、古墳時代前期の甕、平安時代の壺や甕、近世～明治期の染付茶碗の他、石器、鉄製品、古銭などがある。

丘陵部の14箇所に2×2mのグリッドを設け、旧石器時代文化層の確認調査を実施したが、4箇所で約3万年前に降下した川崎スコリア層を検出したにとどまった。



調査区全景



SK36(Tピット)とSK27(焼土土坑)

[15] 富沢・泉崎浦・山口遺跡

今年度富沢地区では、富沢遺跡第35次調査を除くと18地点で調査が行われ、全地点において水田跡を中心とする遺構が検出された。検出された水田跡は水田跡の可能性がある層を含めるところ83面を数えるが、そのうち時期がある程度限定できたのが、弥生時代7面（3期）、古墳時代1面、平安時代3面（1～3期）、平安時代～中世1面、中世3面（1～3期）である。

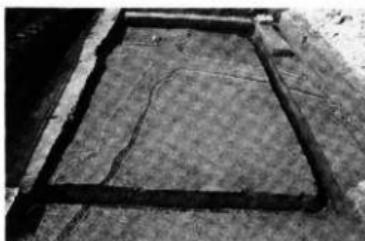
各時期の水田跡のうち、弥生時代については調査区間における層の対応関係からある程度広い範囲における水田域の広がりが確認できた。平安時代については条里型土地割に関係すると考えられる大畦畔が検出されている。また、富沢遺跡第43次調査では、樹木や植物遺体を含む泥炭質粘土層が検出され、第30次調査の旧石器時代の層と同じ層である可能性が指摘される。

調査要項

調査次数	所 在 地	調査期間	調査面積	調査員
富沢第36次	富沢一丁目5-1	4月11日～4月20日	約36m ²	主 浜 光 脈
富沢第37次	長町南四丁目5	4月11日～6月15日	約200m ²	中 富 洋
富沢第38次	長町南三丁目4	5月23日～7月14日	約153m ²	渡 部 弘 美
富沢第39次	長町南四丁目19	6月16日～7月30日	約160m ²	中 富 洋
富沢第40次	長町七丁目	7月18日～9月30日	約360m ²	渡 部 弘 美
富沢第41次	長町南三丁目15-17	7月18日～7月30日	約26m ²	佐 藤 甲 二
富沢第42次	泉崎一丁目7	8月1日～9月14日	約98m ²	中 富 洋
富沢第43次	長町南四丁目5-10	8月22日～9月27日	約80m ²	太 田 昭 夫
富沢第44次	長町南一丁目8-17	8月24日～9月2日	約40m ²	平 間 光 輝
富沢第45次	泉崎一丁目7	9月5日～9月14日	約23m ²	中 富 洋
富沢第46次	長町南三丁目3-1	10月3日～11月30日	約222m ²	佐 藤 甲 二・佐 藤 淳・渡 部 弘 美
富沢第47次	鹿野三丁目13	9月26日～10月24日	約95m ²	中 富 洋
富沢第48次	泉崎一丁目2	10月3日～10月14日	約80m ²	太 田 昭 夫
泉崎浦第4次	泉崎一丁目16-3	11月1日～11月17日	約21m ²	佐 藤 淳
山 口 第 5 次	泉崎一丁目32-22	4月18日～5月14日	約48m ²	平 間 光 輝
山 口 第 6 次	富沢一丁目11	4月18日～5月27日	約42m ²	平 間 光 輝
山 口 第 7 次	泉崎一丁目32	8月1日～8月5日	約33m ²	佐 藤 甲 二
山 口 第 8 次	富沢一丁目5-1	8月1日～8月5日	約35m ²	佐 藤 甲 二



富沢遺跡第46次調査10d層水田跡



山口遺跡第6次調査6層水田跡(古墳時代)

[16] 富沢遺跡第35次調査

1. 調査地 長町南一丁目2・3番地
2. 調査期間 昭和63年5月9日～12月23日、昭和64年3月8日～3月24日
3. 調査面積 約2,200m²
4. 調査員 佐藤甲二、平間充輔、宮崎 明
5. 調査の概要

調査地点は富沢遺跡の北東端にあたり、今年度は2年次にわたる調査の1年目である。調査の結果、弥生時代から江戸時代まで計16期の水田跡が検出された。内訳は江戸時代2時期、鎌倉時代～室町時代2時期、平安時代5時期、古墳時代1時期、弥生～古墳時代1時期、弥生時代5時期である。各時期の水田跡の特徴は以下の通りである。

1. 中世

北東側に隣接する第15次調査区では中世の居住域が検出されているが、今回の調査区では居住域は確認できず、全面が水田となっていた。

2. 平安時代

10層水田跡は灰白色灰降下前後の時期のもので、直交する大畦畔が検出されているが、これは条里型土地割における坪境を示す畦畔であると推定される。この大畦畔は11層から7層の時期まで踏襲されることから条里型土地割が長期間に及んで存続したことが予想される。

3. 古墳時代

14層水田跡は南小泉式期に属し、一边1.5～4.5m程度の小区間が多数検出された。この水田跡は第15次調査7a層水田跡に対応し、今回の調査でそれが南方に広がることを確認した。

4. 弥生時代

弥生時代の水田跡は、5期の変遷が認められたが、水田耕作土が調査区全面に認められる場合と耕作域と非耕作域とに分かれる場合とがあり、各期においてそれぞれ水田域が異なっていることが確認された。



富沢遺跡第35次・10層水田跡(平安時代)



富沢遺跡第35次・14層水田跡(古墳時代)

3. 普及啓蒙関係

私たちの祖先は、豊かできびしい自然の中で生き続けてきた。その対話の中から創造し、はぐくんできた文化遺産は、現代に生きる私たちに人間としての生き方・未来へのあり方を示し、多くの教訓を語りかけてくれている。

これらの文化遺産を自らの五感を通して体験してもらおうと、今年度も多くの行事を実施した。そのいくつかを紹介していきたい。

(1) 発掘体験学習

むかしの人々の生活・歴史の追体験を通して、郷土（自分たちの住む身近なところ）にも教科書と同様の歴史が連録と続いていることに気付かせ、歴史学習をいっそう身近なものとしてとらえることができると思われる。

今年度は、仙台市立大野田小学校・遠見塚小学校に協力を依頼し、年間の行事として体験学習を実施した。

- ① 事前見学（年間を見通した学習内容の確認と事実の把握）
- ② 事前指導（市の遺跡についての学習、発掘調査に対する意識の高揚と確認）
- ③ 実体験（調査現場において実際に体験する）－富沢遺跡・南小泉遺跡－
- ④ 事後見学（実験の場を再度見学し、年間の学習のまとめをする）

「土」をとおしての触れ合いー今後とも教科書では学ぶことのできない生きた学習の場を提供することにより、地域に学ぶ児童は、自分たちの住む郷土を知るとともに、先人の努力工夫等についても理解できるのではないだろうか。

実体験学習



遠見塚小学校



大野田小学校

(2) 文化財めぐり

8月8日、「中世の城館跡を歩いてみよう」ということで、市民50名が参加して行われた。講師に、東北学院大学教授 大石直正氏をお迎えし、岩切城跡・多賀城市埋蔵文化財センター・新田遺跡等を見学した。



板碑の説明を真剣に聞き入る参加者

(3) 夏休み親子体験学習

「作ってみよう：君だけの縄文土器を！」というテーマで、市内の親子20組が参加し、仙台市博物館講習室と山田上ノ台遺跡で展開された。実日数は2日間であったが、乾燥の期間を含めると約1ヶ月間の長期におよぶ体験学習でした。参加者は、なかなか体験することのできない学習であり一人一人真剣な表情で取り組んでいたのが印象的だった。



イメージどおりにできたかな！

(仙台市博物館講習室)



ただ今・土器焼成中

(山田上ノ台遺跡)

(4) 考古展並びに講演会

仙台の中世—いくさ・いのり・くらしーをテーマに、12月19日～23日までの5日間、東北電力グリーンプラザギャラリーを会場に実施した。短い期間ながら、1,600人以上の市民の方々が中世の世界にタイムスリップした。

同時に開催された講演会では、東北学院大学教授 大石直正氏が「仙台の中世を探る」、東北歴史資料館学芸部企画科長 小井川和夫氏が「考古学からみた仙台の中世」と題し、それぞれ文献と考古学の両分野から2時間にわたり講演された。



大石直正氏



小井川和夫氏

(5) 第11回文化財展（発掘この1年）

3月20日～25日の6日間、仙台市役所本庁舎1階ロビーにおいて、1年間にわたって実施した文化財関係の調査及び事業について、写真パネルや遺物を通してその成果を広く市民の方々に紹介した。今回は、富沢遺跡の旧石器関係を中心に、泉地区の文化財についても紹介した。

また、「二万年前の仙台」というテーマで、講演会を実施した。内容は、調査員がスライドを使ってわかりやすく富沢遺跡を紹介した後、文化庁の岡村道雄氏が講演された。約200名の参加者を数えた。



岡村道雄氏

(6) その他

- ① 記者発表・現地説明会を5調査現場で6回実施した。特に、6月12日、富沢遺跡の現地説明会では、約1,200名の来跡者があった。
- ② 広報機関紙として「広報文化財」を26号～30号を発行し、それぞれ10,000部を印刷し各関係機関に配布した。

昭和63年度 普及啓蒙活動実施一覧表

項目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
考古調査・文書調査													
体験学習													
夏休み行事													
めぐり・講話													
記者発表・現地説明会													
見学会													
広報文化課													

仙台市内にある指定文化財一覧表

(昭和63年4月現在)

種別名	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
(A) 建造物				
国 宝	大崎八幡神社	八幡四丁目6-1	大崎八幡神社	昭27.11.22 (明36.4.15)
国指定重要文化財	大崎八幡神社社長床	八幡四丁目6-1	大崎八幡神社	昭41.6.11
国指定重要文化財	陸奥國分寺薬師堂	木ノ下三丁目8-1	陸奥國分寺	明36.4.15
国指定重要文化財	東照宮	東照宮一丁目6-1	東照宮	昭28.3.31
県指定有形文化財	東照宮手水舎	東照宮一丁目6-1	東照宮	昭39.9.4
県指定有形文化財	白山神社本殿	木ノ下三丁目9-1	白山神社	昭30.3.25
県指定有形文化財	落合觀音堂	四郎丸字落合60	光西寺	昭44.8.29
県指定有形文化財	大崎八幡神社石鳥居	八幡四丁目6-1	大崎八幡神社	昭45.10.30
県指定有形文化財	龜岡八幡神社石鳥居 附、鳥居額	川内龜岡62	龜岡八幡神社	昭45.10.30
県指定有形文化財	宮城県知事公館正門(旧仙台城門)	広瀬町5-43	宮城県	昭46.11.9
県指定有形文化財	旧仙台城倉庫	岩切字三所北16	日野正一	昭53.5.2
県指定有形文化財	陸奥國分寺藥師堂仁王門	木ノ下三丁目8-1	陸奥國分寺	昭50.4.30
県指定有形文化財	源訪神社本殿 附、棟札	上愛了字宮下40	源訪神社	昭58.7.2
県指定有形文化財	賀茂神社本殿	古内字乱1	賀茂神社	昭39.9.4
市指定有形文化財	善光寺開山堂	喜沢二丁目3-1	善光寺	昭43.2.15
市指定有形文化財	旧第四連隊兵舎	五輪一丁目3-7	仙台市	昭53.6.16
市指定有形文化財	旧伊達邸	茂庭字人来田西143-3	仙台市	昭58.12.1
市指定有形文化財	大年寺懸門	茂ヶ崎四丁目	(仙台市)	昭60.9.4
市指定有形文化財	成対寺山門(旧淨眼院殿笠屋門)	新寺三丁目10-12	成対寺	昭61.12.20
市指定有形文化財	狂歌寺山門	新坂町12-1	狂歌寺	昭61.12.20
市指定有形文化財	輪王寺山門	北山一丁目6番街区	輪王寺	昭61.12.20
市指定有形文化財	大圓寺虚空藏堂 附、祠子	向山四丁目17-1	大圓寺	昭62.3.30
市指定有形文化財	大願寺山門(旧万寿院殿笠屋門)	新坂町7-1	大願寺	昭62.3.30
市指定有形文化財	泰心院山門(旧仙台澤藤校書堂正門)	南銀町100	泰心院	昭62.3.30
市指定有形文化財	宇那櫛神社本殿 附、棟札	平沢字明神12	宇那櫛神社	昭62.11.1 (昭47.12.27) (昭48.11.20)
市指定有形文化財	臨済院地内舟財天蓋並びに堂地	園見ヶ丘四丁目	千田定兼ほか	昭62.11.1 (昭62.9.11)
市指定有形文化財	小池武橋	秋保町馬場字駅	仙台市	昭63.3.1 (昭58.8.1)
市指定有形文化財	旧鴻谷家住宅	福岡字岳山9-5	仙台市	昭63.3.1 (昭61.4.1)
(B) 錄 刻				
国指定重要文化財	木造釈迦如来立像	八幡四丁目8-32	龍宝寺	明36.4.15
県指定有形文化財	木造十二神将	木ノ下二丁目4-1	陸奥國分寺	昭34.8.31
県指定有形文化財	聖觀音	新寺三丁目10-12	成対寺	昭49.4.30

種別名	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
県指定有形文化財	木造毘沙門天立像	木ノ下二丁目4-1	陸奥国分寺	昭50. 4. 30
県指定有形文化財	木造不動明王立像	木ノ下二丁目4-1	陸奥国分寺	昭50. 4. 30
県指定有形文化財	木造十一面觀音立像	松岡町64	菊谷 真和子	昭51. 3. 29
県指定有形文化財	木造阿彌陀如來立像	新寺三丁目5-3	阿彌陀寺	昭55. 5. 30
県指定有形文化財	木造阿彌陀如來立像	福井市阿彌陀堂前21	早坂 忠治 (昭40. 5. 18)	昭53. 3. 1
市指定有形文化財	木造軀坐如意坐像	北川一丁目14-1	輪王寺	昭51. 7. 1
(C) 絵 畫				
県指定有形文化財	宮城県丹前岡	橋ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1. 16
県指定有形文化財	松島五大堂圖	橋ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1. 16
県指定有形文化財	松島圖	橋ヶ岡5	宮城県(図書館)	昭48. 1. 16
県指定有形文化財	渤海覺茶羅図 附: 丹上清海覺茶羅晴浜波中著	新寺三丁目10-12	成當寺	昭49. 4. 30
市指定有形文化財	紙本著色伊達城六景圖	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭44. 7. 31
市指定有形文化財	菊絵和歌屏風	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	露綿ヶ岡花見園屏風	川内三の丸跡(市博物館)	阿部 和子	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	菅井物語水半翠図	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	仙台城日本丸及二ノ丸御殿 隅壁圖	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	仙台源氏傳藤原士及夫人肖像画	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	碧玉五色龍頭女、牡丹、芙蓉圖 伊達顯宗手写	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	紙本著色河圖之図 東夷洋華	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	銅版淡彩悲しみのマリア像	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
(D) 書 論				
国 宝	紙本墨書き聖史	片平二丁目1-1	国(東北大手保管)	昭27. 11. 22
国 宝	紙本墨書き聖史	片平二丁目1-1	国(東北大手保管)	昭27. 11. 22
市指定有形文化財	賀茂神御靈跡三幅对	茂庭宇網木裏山14	大乘寺	昭51. 7. 1
(E) 工芸				
国指定重要文化財	太刀	川内桑岡町62	桑岡八幡神社	大3. 4. 17
国指定重要文化財	白長刀(太刀)	台原四丁目8-15	杉山家	昭14. 5. 27
国指定重要文化財	小紋染刷版	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭53. 6. 15
国指定重要文化財	伊達政宗所用具足	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭54. 6. 6
国指定重要文化財	豊臣秀吉所用具足	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭54. 6. 6
県指定有形文化財	銅鑄	愛尾下23-5	看風寺	昭37. 6. 28
県指定有形文化財	短刀	根岸町3-10	大竹左右吉	昭34. 8. 31
県指定有形文化財	刀	根岸町3-10	大竹左右吉	昭34. 8. 31
県指定有形文化財	薙刀	中央二丁目3-24	本郷栄一郎	昭34. 8. 31
県指定有形文化財	刀	国分町二丁目4-14	佐藤太志	昭34. 8. 31

種別名	名 称	所 在 地	所有者(管理番)	指定年月日
県指定有形文化財	刀	番町三丁目11-8	中川高	昭38. 8. 31
県指定有形文化財	太刀	番町二丁目11-8	中川高	昭38. 8. 31
県指定有形文化財	銅鏡	山の寺二丁目3-1	洞雲寺	昭63. 3. 1 (昭37. 6. 28)
市指定有形文化財	一沢初子所用舟	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭44. 7. 31
市指定有形文化財	調造十二神持像掛額	木下下三丁目8-1	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	梵鐘	向山四丁目4-1	天満寺	昭52. 3. 1
市指定有形文化財	仙台藩歷代藩主所用具足	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	垂拂頭 伊達政宗所用	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	孔雀羽根威威陣羽扇 伊達重村所用	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	茶杓 仙台藩歷代藩主作	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	仙台城御本丸御殿金具	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	花鳥山水孔雀羽根威威散馬松 十二次	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
(5) 考古資料				
国指定重要文化財	埴輪武長子手舟像	白原四丁目8-16	杉山家	昭15. 5. 3
国指定重要文化財	硬下製石孔玉器	白原四丁目8-16	杉山家	昭37. 2. 2
国指定重要文化財	埴輪甲、埴輪家残闕、埴輪鬥鉢	片平二丁目1-1	文部省(東北大学)	昭34. 6. 27
国指定重要文化財	移前西沼田貝塚出土品	片平二丁目1-1	文部省(東北大学)	昭38. 7. 1
国指定重要文化財	硬下磨製石斧	白原四丁目8-16	杉山家	昭48. 6. 6
市指定有形文化財	伊達政宗幕所出十品	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
(6) 古文書				
市指定有形文化財	印押 仙台藩歷代藩主所用	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	伊澄治家記録(仙台市博物館本)	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	伊達貞盛家譜及絵図 (仙台市博物館本)	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	伊達山貞正御手次考 (仙台市博物館本)	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	昭代々考考證 道佐好生筆	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	奥州仙台城絵図	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	林子平自筆牙本城略 附: 六無合通疏	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
市指定有形文化財	文政家文書	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭60. 9. 4
(7) 歴史資料				
国指定重要文化財	慶長遣欧使節関係資料	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭41. 6. 11
県指定有形文化財	坤舆萬國全圖	桜ヶ岡5	宮城県(図書室)	昭51. 3. 29
市指定有形文化財	源氏物語	桜ヶ岡公園1-1	仙台市(天文台)	昭45. 2. 23
市指定有形文化財	象眼鏡	桜ヶ岡公園1-1	仙台市(天文台)	昭45. 2. 23
市指定有形文化財	天球儀	桜ヶ岡公園1-1	仙台市(天文台)	昭45. 2. 23

種別名	名	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
市指定有形文化財	唐芥子(村田本)	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	晴宗公采地下墨蹟	川内三の丸跡(市博物館)	仙台市(博物館)	昭51. 7. 1
(1) 金 石 文				
市指定有形文化財	芭蕉句碑	木ノ下二丁目	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	大淀三千風供墨蹟	木ノ下二丁目	陸奥国分寺	昭51. 7. 1
市指定有形文化財	芭蕉句碑	柳ヶ岡23	柳岡天満宮	昭52. 3. 1
市指定有形文化財	原町吉竹の道知るべ石	原町三丁目	仙台市	昭52. 3. 1
(2) 無 形 文 化 財				
県指定有形文化財	精打削古平	根岸町13-5	中田綱郎	昭51. 3. 29
(3) 無 形 非 常 文 化 財				
県指定重要無形民俗文化財	秋保の田植踊	秋保町馬場、長袋、湯元	馬場の田植踊保存会 長袋の田植踊保存会 湯元の田植踊保存会	昭51. 5. 4
県指定無形民俗文化財	大崎八幡神社の能神楽	八幡四丁目	大崎八幡神社の能神楽 保存会	昭47. 10. 11
県指定無形民俗文化財	愛子の田植踊	下愛子字宇町	愛子の田植踊保存会	昭53. 4. 23
県指定無形民俗文化財	大倉の役人田植踊	大倉字明神前	大倉の役人田植踊保存会	昭53. 4. 23
県指定無形民俗文化財	新川の田植踊	新川字北野尻	新川の田植踊保存会	昭53. 4. 23
県指定無形民俗文化財	平沢の田植踊	平沢字明神	平沢の田植踊保存会	昭53. 4. 23
県指定無形民俗文化財	下倉の田植踊	大倉字宮前	下倉の田植踊保存会	昭46. 8. 3
県指定無形民俗文化財	川前の舞踊・剣舞	平沢字大竹原	川前の舞踊・川前の剣舞 保存会	昭48. 11. 6
県指定無形民俗文化財	野口の舞踊	秋保町馬場	野口の舞踊保存会	昭47. 10. 11
市指定無形民俗文化財	鹿原の獅子舞	秋保町馬場	鹿原の獅子舞保存会	昭63. 3. 1 (昭51. 11. 3)
市指定無形民俗文化財	馬場愛宕神社神楽	秋保町馬場宇北山4	馬場愛宕神社神楽保存会	昭63. 3. 1 (昭51. 8. 1)
市指定無形民俗文化財	福岡の舞踊・剣舞	福岡字中在家43	福岡の舞踊・剣舞保存会	昭63. 3. 1 (昭59. 10. 21)
市指定無形民俗文化財	上谷刈の舞踊・剣舞	古内字札1	上谷刈の舞踊・剣舞 保存会	昭63. 3. 1 (昭59. 10. 21)
市指定無形民俗文化財	大沢の田植踊	泉ヶ丘三丁目5-23	大沢の田植踊保存会	昭63. 3. 1 (昭62. 8. 1)
(4) 史 路				
国指定史跡	陸奥国分寺跡	木の下二丁目、三丁目	仙台市ほか(仙台市)	大11. 10. 12
国指定史跡	陸奥国分尼寺跡	白萩町	仙台市ほか(仙台市)	昭23. 12. 18
国指定史跡	林子寺墓	丁平町19-5	電気院(仙台市)	昭17. 7. 21
国指定史跡	達見塚古墳	達見塚一丁目、二丁目	仙台市ほか(仙台市)	昭43. 11. 8
国指定史跡	岩切跡	岩切字人山ほか	仙台市ほか(仙台市)	昭57. 8. 23
市指定史跡	善光寺横穴古墳群	柴沢二丁目	善光寺	昭43. 2. 15
市指定史跡	三沢初子の墓など	柳ヶ岡五丁目4	仙台市	昭47. 2. 1
市指定史跡	刀工木綿御包の墓所	新寺二丁目7-33	善導寺	昭55. 10. 20
市指定史跡	盛ヶ峯伊達家墓所	豊水下	仙台市ほか	昭59. 7. 21

種別名	名 称	所 在 地	所有者(管理者)	指定年月日
市指定史跡 西船跡	下愛子字船	武 口 伏 吉 ほか	昭62.11. 1 (昭50.12.11)	
市指定史跡 郡穴城跡	郡穴字庄子	安 連 久 雄 ほか	昭62.11. 1 (昭50.12.11)	
市指定史跡 萩松院墓所	根白石字館下	満 真 寺	昭63. 3. 1 (昭43. 3. 1)	
市指定史跡 松森塙跡	南光台東二丁目35-8	仙 台 市	昭63. 3. 1 (昭62. 5. 1)	
神 名 勝				
国指定名勝 秋保大滝	秋保町馬場字大滝地内	建設省ほか(仙台市)	昭17. 3. 7	
国指定名勝 番司	秋保町馬場字岳山地内	林 野 庁(仙台市)	昭20. 2. 22	
○○ 天然記念物				
国指定天然記念物 菅竹のイチョウ	栗吉町	永野もとせ(仙台市)	大15.10.20	
国指定天然記念物 朝鮮ウメ	吉城二丁目	法務省(宮城刑務所)	昭17. 9. 19	
国指定天然記念物 香葉山	荒巻字青葉12番地の内	文部省(東北大)	昭47. 7. 11	
国指定天然記念物 姫鹿	秋保町馬場字岳山	建設省(仙台市)	昭 9. 8. 9	
国指定天然記念物 東昌寺のマルミガヤ	青葉町	東 昌 寺	昭30. 3. 25	
市指定天然記念物 穂家下セコイア類化右林	米代一丁目・三丁目 靈塚下	宮 城 県	昭48. 8. 6	
市指定天然記念物 大御寺のヒョウヒバ	茂庭字鶴木興山4	大 御 寺	昭52. 3. 1	
市指定天然記念物 薔 (かんざし) 植	下愛子字町25-1 上愛子字上原80	庄 子 善 雄 庄 子 善 古	昭62.11. 1 (昭61. 5. 30)	
市指定天然記念物 ミズバシロウ	福岡字岳山	仙 台 市	昭63. 3. 1 (昭40. 5. 12)	
市指定天然記念物 賀倉神社の神杉(雄杉)	福岡字小山117	賀 倉 神 社	昭63. 3. 1 (昭60. 4. 25)	
市指定天然記念物 賀茂神社のイロハモミジ	古内字乱1	賀 茂 神 社	昭63. 3. 1 (昭60. 4. 25)	
市指定天然記念物 賀茂神社のタラコウ	古内字乱1	賀 茂 神 社	昭63. 3. 1 (昭60. 4. 25)	
市指定天然記念物 賀茂神社のツツカシ	古内字乱1	賀 茂 神 社	昭63. 3. 1 (昭60. 4. 25)	

指定文化財件数

種別	有形文化財	無形文化財	民俗文化財	史 跡	名 勝	天然記念物	計
国 家	3	—	—	—	—	—	3
国 指 定	15	—	1	5	2	4	27
県 指 定	30	1	8	—	—	1	40
市 指 定	51	—	5	8	—	8	72
	99	1	14	13	2	13	142

文化財課監督員録

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物並置下セコイア化石林調査報告書(昭和39年4月)
第2集 仙台城(昭和42年3月)
第3集 仙台市燕渕青森寺横穴古墳群調査報告書(昭和43年3月)
第4集 史跡除草四分田寺跡環境整備並びに調査報告書(昭和44年3月)
第5集 仙台市南小泉法頌塚古墳調査報告書(昭和47年8月)
第6集 仙台市荒井五本松高麗陵免掘調査報告書(昭和48年10月)
第7集 仙台市宮沢町古墳免掘調査報告書(昭和49年3月)
第8集 仙台市山内町愛宕山横穴古墳群免掘調査報告書(昭和49年5月)
第9集 仙台市根岸町宇多津寺横穴群免掘調査報告書(昭和51年3月)
第10集 仙台市中町田安東遺跡免掘調査報告書(昭和51年3月)
第11集 史跡追見古墳環濠整備予備調査概報(昭和51年3月)
第12集 史跡追見古墳環濠整備第二次予備調査概報(昭和52年3月)
第13集 南小泉史跡・荒川通鑑調査報告書一(昭和53年3月)
第14集 車道跡免掘調査報告書(昭和54年3月)
第15集 史跡追見古墳昭和3年度環境整備予備調査概報(昭和54年3月)
第16集 六反H遺跡免掘調査(第2・3次)のあらまし(昭和54年3月)
第17集 北星遺跡(昭和54年3月)
第18集 仙江遺跡免掘調査報告書(昭和55年3月)
第19集 仙台山地下鉄開係分布調査報告書(昭和55年3月)
第20集 史跡追見古墳昭和3年度環境整備予備調査概報(昭和55年3月)
第21集 仙台市開闢間遺跡調査報告1(昭和55年3月)
第22集 綱ヶ峰(昭和55年3月)
第23集 年報1(昭和55年3月)
第24集 今泉城跡免掘調査報告書(昭和55年8月)
第25集 二神澤遺跡免掘調査報告書(昭和55年12月)
第26集 史跡追見古墳昭和55年度環境整備予備調査概報(昭和56年3月)
第27集 史跡園田古跡分寺跡と昭和55年度免掘調査概報(昭和56年3月)
第28集 年報2(昭和56年3月)
第29集 那山遺跡Ⅰ-Ⅳと昭和56年度免掘調査概報(昭和56年3月)
第30集 山手上ノ台遺跡免掘調査概報(昭和56年3月)
第31集 仙台市開闢間遺跡調査報告書2(昭和56年3月)
第32集 渡ノ瀬遺跡免掘調査報告書(昭和56年3月)

- 第 33集 仙台市遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）
第 34集 六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）
第 35集 南小泉遺跡－都市計画道路建設工事関係第1次調査報告（昭和57年3月）
第 36集 北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
第 37集 仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書（昭和57年3月）
第 38集 郡山遺跡Ⅱ－昭和56年度発掘調査概報（昭和57年3月）
第 39集 焼津遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
第 40集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年3月）
第 41集 年報3（昭和57年3月）
第 42集 郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査（昭和57年3月）
第 43集 菊遺跡（昭和57年8月）
第 44集 渥美半島遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第 45集 江戸崎－灰窓住宅用地造成工事地内遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 46集 郡山遺跡Ⅲ－昭和57年度発掘調査概要（昭和58年3月）
第 47集 仙台平野の遺跡群Ⅱ－昭和57年度発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 48集 史跡遠見塚古墳昭和57年度環状整備工事調査概報（昭和58年3月）
第 49集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅰ（昭和58年3月）
第 50集 岩切畠中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 51集 仙台市文化財分布地図（昭和58年3月）
第 52集 南小泉遺跡－都市計画道路建設工事関係第2次調査報告（昭和58年3月）
第 53集 中田畠中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 54集 神明社遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 55集 南小泉遺跡－青葉女子学園新校舎新設工事地内調査報告（昭和58年3月）
第 56集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年3月）
第 57集 年報4（昭和58年3月）
第 58集 今泉城跡（昭和58年3月）
第 59集 下ノ内油遺跡（昭和58年3月）
第 60集 南小泉遺跡－倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書（昭和58年3月）
第 61集 山口遺跡Ⅱ－仙台市体育馆建設予定地（昭和59年2月）
第 62集 燕沢遺跡（昭和59年3月）
第 63集 史跡陳述園分寺跡昭和58年度発掘調査概報（昭和59年3月）
第 64集 郡山遺跡Ⅳ－昭和58年度発掘調査概要（昭和59年3月）
第 65集 仙台平野の遺跡群Ⅲ－昭和58年度発掘調査報告書（昭和59年3月）
第 66集 年報5（昭和59年3月）
第 67集 富田水田遺跡－第1回－早稲田地区（昭和59年3月）
第 68集 南小泉遺跡－都市計画道路建設工事関係第3次調査報告（昭和59年3月）
第 69集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ（昭和59年3月）
第 70集 戸ノ内遺跡発掘調査報告書（昭和59年3月）
第 71集 後河原遺跡（昭和59年3月）
第 72集 六反田遺跡（昭和59年3月）
第 73集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ（昭和59年3月）
第 74集 郡山遺跡Ⅴ－昭和59年度発掘調査概報（昭和60年3月）
第 75集 仙台平野の遺跡群Ⅳ（昭和60年3月）
第 76集 仙台城二ノ丸跡発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 77集 山田上ノ台遺跡－昭和59年度第2次発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 78集 中田畠中遺跡－第2次発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 79集 次ノ上ノ台遺跡発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 80集 南小泉遺跡－第12次発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 81集 南小泉遺跡－第13次発掘調査報告書（昭和60年3月）
第 82集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ（昭和60年3月）
第 83集 年報6（昭和60年3月）
第 84集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ（昭和60年3月）
第 85集 宮城県仙台市愛宕山麓構築古墳発掘調査報告書（昭和60年8月）
第 86集 郡山遺跡Ⅵ（昭和61年3月）
第 87集 仙台平野の遺跡群Ⅴ－昭和60年度発掘調査報告書（昭和61年3月）
第 88集 上野遺跡発掘調査報告書（昭和61年3月）
第 89集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ（昭和61年3月）
第 90集 若林城跡－平安時代の集落跡（昭和61年3月）
第 91集 東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書（昭和61年3月）

- 第92集 五城中北遺跡発掘調査報告書（昭和61年3月）
第93集 仙台市文化財分布調査報告書V（昭和61年3月）
第94集 年報7（昭和61年3月）
第95集 柳生（昭和62年3月）
第96集 鹿山遺跡群－昭和61年度発掘調査概報－（昭和62年3月）
第97集 仙台平野の遺跡群VI－昭和61年度発掘調査報告書－（昭和62年3月）
第98集 富沢遺跡（昭和62年3月）
第99集 五本松塗跡発掘調査報告書（昭和62年3月）
第100集 山田上ノ台発掘調査報告書（昭和62年3月）
第101集 仙台市高遠鉄道関係道路調査概報V（昭和62年3月）
第102集 六反田遺跡発掘調査報告書（昭和62年3月）
第103集 元森Ⅲ遺跡発掘調査報告書（昭和62年3月）
第104集 富沢遺跡－東北地方建設局長町宿舎建設工事に伴う発掘調査報告書－（昭和62年3月）
第105集 北前遺跡発掘調査報告書（昭和62年3月）
第106集 仙台市文化財分布調査報告書V（昭和62年3月）
第107集 年報8（昭和62年3月）
第108集 萩日社古墳・島居冢古墳発掘調査報告書（昭和62年8月）
第109集 南小泉遺跡－第14次発掘調査報告書－（昭和62年11月）
第110集 鹿山遺跡群－昭和62年度発掘調査概報－（昭和63年3月）
第111集 仙台平野の遺跡群VII－昭和62年度発掘調査報告書－（昭和63年3月）
第112集 東光寺遺跡発掘調査報告書（昭和63年3月）
第113集 富沢遺跡第24次調査報告書（昭和63年3月）
第114集 富沢遺跡第28次発掘調査報告書（昭和63年3月）
第115集 下ノ内浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年3月）
第116集 燕沢遺跡（昭和63年3月）
第117集 富沢遺跡第33次発掘調査報告書（昭和63年3月）
第118集 富沢遺跡第34次発掘調査報告書（昭和63年3月）
第119集 泉崎浦遺跡発掘調査報告書（昭和63年3月）
第120集 銀ヶ丘ニム－タウン開拓遺跡調査報告書（昭和63年3月）
第121集 仙台市文化財分布調査報告書VI（昭和63年3月）
第122集 年報9（昭和63年3月）
第123集 浦ノ堀遺跡（平成元年3月）
第124集 那山遺跡X－昭和63年度発掘調査概報－（平成元年3月）
第125集 仙台平野の遺跡群－昭和63年度発掘調査報告書－（平成元年3月）
第126集 仙台市高遠鉄道関係遺跡発掘調査報告書1－（平成元年3月）
第127集 上野遺跡－電力鉄塔関係発掘調査報告書－（平成元年3月）
第128集 富沢・泉崎浦・山口遺跡－36～48次・4次・5～8次－（平成元年3月）
第129集 北前遺跡第3次発掘調査報告書－（平成元年3月）
第130集 茂ヶ崎横穴墓群（平成元年3月）
第131集 南小泉遺跡－第15次発掘調査報告書－（平成元年3月）
第132集 年報10（平成元年3月）

仙台市文化財調査報告書第132集

昭和63年度

年 報 10

平成元年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区四分町3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

印刷 株式会社共新精版印刷

仙台市宮城野区日の出町2-4-2

TEL 236-7181

